

春一番虚子の生れし日なりけり

藤田湘子

虚子忌が釈迦（ゴータマ・シツダールタ）の降誕日と同じ四月八日だと、俳人にはよく知られている。

しかし、「虚子の生まれし日」と言われても直ぐには思いつけなかつた。

「春一番」の頃とある。立春を過ぎ、南風に沈丁花の硬い蕾が開き始める季節。それなら二月の半ば。調べてみると二月二十二日であつた。

忌日に比べ有名な人の生誕日は、よほど興味があり記憶に残る人でなければ思いつけない。湘子にとつて、三年間の一日十句の修行を終えてからすでに十一年め。日常の言葉や呟きが、そのまま俳句になるような体質に変わっていたのではなからうか。平凡だが心に残る一句。

1997年（H9作）第十句集『神楽』 鑑賞・轍郁摩